

まほろば【校長室だより】

[文責]

校長 江口 尋信

「6月」について思うこと

6月1日(月)、2年生が育てているナスが1つ実をつけていました。ナスの旬は5月～10月で、6月1日に実をつけてもおかしくはありません。しかし、子どもたちが苗を植えてから3週ほどしか経っておらず、成長の早さに驚かされます。ナスがよく成長するには、強い日差しと高温多湿であることが条件だそうです。5月は、25℃以上の夏日が続きました。また、ムシムシする嫌な湿度もナスにとっては良かったのでしょうか。(もちろん、2年生が一生懸命お世話をしたことも大きな要因です!)ナスだけでなくピーマンも実をつけていました。2年生が嬉しそうにナスやピーマンを見せてくれました。わたしが子どもの頃のイメージですが、6月といえばアジサイ、カタツムリ、しとしと降り続く雨、田植え、衣替え……。子どもたちは、ずいぶん前にTシャツ姿になり、5月頃から日傘を使う子どもが増えています。カタツムリを見かけることも少なくなったように思います。季節感がなくなってきたと感じているのはわたしだけでしょうか。



収穫した野菜を見せてくれた2年生。立派なナスやピーマンが育ちました

それから、1年のうち「6月」は子どもの欠席が増える時期です。理由は二つあるように思います。一つは、高い気温・湿度と一日の気温差によって体調不良を起こしやすいことです。わたしの2年前の苦い経験ですが、5月末に風邪をひき、そのうち咳が続くようになり、6月に肺炎という診断を受けました。6月の暑さ・湿度が風邪からの回復に必要な体力を奪っていったのではないかと思います。二つは、心の疲れに体がついていかないことです。4月に新学期が始まり、緊張感の中で一生懸命頑張ってきた子どもたちは、2ヶ月経った6月に息切れを起こしやすくなります。心身ともに健康に過ごす上で、「6月」はなかなか難しい月なのです。

「魔の6月」「11月危機」という言葉をご存知ですか。これは、学校生活を1年間のスパンで見るとき、学級の雰囲気が悪くなる危機が6月と11月にやってくることを表した言葉です。子どもたちの身体的健康は、ご家庭にお願いすることになりますが、心の疲れについては学校としても十分気をつけていく必要があります。

取り留めもなく「6月」について書きましたが、子どもたちが元気に学校生活を送ることができるよう、いい「6月」にしたいと思います。